

# 進路通信

5月22日

## 学部・学問情報

### ◆情報科学…コンピュータを利用して情報の活用法を研究する

#### 【学問の内容】

情報科学は、数学の知識や基礎理論をベースにして情報について研究する学問で、もともとは確率論や統計学、最適化法といった応用数学から発展したものである。コンピュータの発達による現代の高度情報化社会を背景として、今後ますます重要になる学問である。

情報の性質や構造を解き明かす情報理論に基づいて、コンピュータを使った情報処理やデータ解析の方法などを学び、情報システムの設計や開発の専門家をめざす。

#### 【卒業後の進路】

一般企業でシステムエンジニアやプログラマーになる人が多い。業種としては、コンピュータ関連や電気機器メーカーのほか、銀行、証券、保険などの金融業があり、データの分析や統計処理などを行う職種に就くことが多い。また、数学の教員をめざす人や、大学院へ進む人もいる。

#### 【大学選びのアドバイス】

情報科学は理学部や理工学部に設置された情報科学科などで学ぶことができる。情報科学は近年、数学が急速に発展した結果生まれた学問分野であるため、もともと数学科だった学科に情報科学も専攻できるようにした大学もある。理論を重視する学科と、情報科学の実践面にあたるソフトウェアについて深く学べる学科とに大別される。自分が何を勉強したいのかをよく考えておきたい。

### ◆経営情報学…企業経営における「情報の活用」を研究する

#### 【学問の内容】

経営情報学は、「ITを利用した情報システムを、経営にいかに関活用していくか」を研究する、比較的新しい学問分野です。企業経営をしていくうえではさまざまな課題があります。課題解決のために利用するIT技術（ソフトウェア）の開発など、情報処理の技術や通信技術の開発に力を注ぐのが経営情報学です。

経営情報学を研究していくにあたっては、企業の経営に必要な情報とはなにか、それはどこにあるのか、それらをどのように活用し、企業の発展にどう結びつけるのか、という発想が常に求められます。経営者が意志決定する際に必要なのは、正確な“情報”です。その“情報”には、経理的な数字だけでなく、経営者の勘と経験に裏付けされた直感のようなものまで含まれています。経営情報学はこうした「情報の活用」についても研究しており、コンピュータから出てくる機械的なデータだけでなく、経営者の勘や経験といった人間的な側面も含めた意志決定のあり方を探っていくのです。

#### 【卒業後の進路】

証券会社、銀行、メーカー、流通、サービス業などの情報システム部門やコンピュータ関連企業など幅広い分野の企業に就職する人が多い。また、若手起業家となる人もいる一方、公務員や資格取得をめざす人も多い。